

平成31年度学校自己評価システムシート (県立三郷工業技術高等学校)

目指す学校像	「ものづくりの精神」に基づき、豊かな人間性を育成するとともに、学力向上をとおして、生徒の自信を高め、地域に貢献できる技術者を育成する
--------	--

重点目標	1 基礎学力や専門知識・技術の習得を重視し、学習指導を充実させる 2 生徒指導及び進路指導の充実を図り、社会人基礎力を身につけさせる 3 開かれた学校づくりに取り組み、工業高校の魅力を積極的に発信する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	6名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価 (1 月 1 7 日 現 在)		
年 度 目 標					年度評価 (1 月 1 7 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	現状：基礎学力や家庭学習習慣が身に付いていない生徒が見受けられる 課題：生徒の意欲を引き出し、確かな職業観を育成するため、生徒が主体的に学ぶ機会を増やす必要がある	①基礎学力の向上と主体的な学習態度の育成	①公開授業等により、主体的・対話的で深い学びを促す実践	①「授業内容を理解できた」という生徒の割合75%を達成 ②きめ細かな指導をし、成績優秀者数5%増加、成績不振者5%減少の達成	基礎学力向上・主体的学習態度の育成は概ね達成できた ①教科の内容を理解している生徒は70%。成績優秀者13.2%増、成績不振者23.6%増であった ②夏休みに補講を実施した結果9月のテストでは3教科で1年生92名、2年生65名の学力が向上した英語スピーキングテストを実施することで4観点を伸長する取組を研究している	B	生徒理解を深めるとともに授業及び評価等の改善に取り組み、理解度や満足度等に係る数値の向上を図る必要がある
			②基礎力診断テストを活用し学力向上につなげる	①結果を把握するとともに前回と比べて向上した生徒が増えたか			
		②専門知識と技術の確実な習得	①新学習指導要領対応教育課程の作成と専門学科指導目標の見直し ②資格取得や各種コンテストへの挑戦	①本校の実態に即した魅力ある教育課程の編成 ②資格取得率やコンテストに参加する生徒が増加したか	①教育課程委員会を中心に、R4入学生を対象とした新教育課程案を編成した ②今年度新たな資格を1個以上獲得した人数は321人、取得率50.9%。工業系部活動の部員だけでなく課題研究の生徒も産業教育フェア等のコンテストに参加し、ロボット相撲等で全国大会に出場した	①教育課程委員会を中心に、R4入学生を対象とした新教育課程案を編成した ②今年度新たな資格を1個以上獲得した人数は321人、取得率50.9%。工業系部活動の部員だけでなく課題研究の生徒も産業教育フェア等のコンテストに参加し、ロボット相撲等で全国大会に出場した	A
2	現状：挨拶、身だしなみなどは良好であり、部活動に意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、加入率の減少が課題である 課題：授業や資格取得指導などとおして、コミュニケーション能力を高め、集団の一員としての自覚と責任を高める必要がある	①規律ある生徒の育成を目指した組織的・重点的な生徒指導	①生徒一人ひとりを理解した生徒指導と自ら考える力を養わせる	①生徒理解に努め、自己肯定感を高められる生徒指導の充実を図る ②基本的生活習慣の確立と「セルフマネジメント能力」を高める生徒指導を推進	規律ある生徒の育成を目指した指導はほぼ達成できた ①きめ細やかな生徒指導を行った結果、特別指導等の件数が減少した。また遅刻者は2学期1日平均15.1件(20.2件)と減少した ②登校指導を28日(27日)、校外立哨指導を21日(15日)、生徒指導部による通年登校指導を実施。自転車事故件数7件(12件)と減少した	A	引き続ききめ細やかな生徒指導を行うとともに、交通ルール順守の徹底、あいさつなど基本的生活習慣の確立を推進していく
			②登下校時の交通安全指導や交通マナーの向上	①自転車事故件数の減少と交通安全に対する意識の向上ができたか			
		②主体的な進路活動による就職率・進学率100%を実現	①生徒・保護者に的確な情報提供を行い、主体的な進路活動の実現 ②進路先との連携し3年間を見通したキャリア教育の実施	①進路実現100%を達成 ②「進路指導が十分に行われている」という生徒・保護者の割合80%を達成 ①教職員の企業訪問及び大学等入学説明会への積極的な参加 ②組織的な面接指導、進学補習の実施	①就職希望者の内定率100% うち県内事業所42.3% 「進路指導はよく行われている」85.7%(82%) ②積極的な企業訪問を行い、2,003件(1,927件)の求人があった。進路指導部による大学等訪問を実施した。一般入試希望者対象に進学補習を行った	①就職希望者の内定率100% うち県内事業所42.3% 「進路指導はよく行われている」85.7%(82%) ②積極的な企業訪問を行い、2,003件(1,927件)の求人があった。進路指導部による大学等訪問を実施した。一般入試希望者対象に進学補習を行った	A
3	現状：開かれた学校づくりのため、積極的に情報提供しているが、生徒募集につながっていない 課題：地域や小中学校関係者に分かりやすい情報提供を行うとともに、PR活動や来校できる機会を増やす必要がある	①積極的に情報提供し、志願者増加させる	①HP等で授業や学校生活等の特色や魅力・成果について積極的に情報を発信	①生徒募集において、各科志願倍率1.0倍を確保する ②HP閲覧数・更新回数増加	積極的な情報提供による志願者増加は概ね達成できた ①12月15日現在0.92倍(0.79倍)。目標実現に向け引き続き活動を継続。12月11日現在HP閲覧数16240件、年間更新数198回。昨年比大幅増 ②中学校出前授業12校、実施予定1校。小中学生対象の公開講座を7回実施。立花小・彦成中と連携実施8月学校見学会198名(128名)11月第2回学校見学会93名(107名)、12月個別ガイダンス23名参加	B	本校過去3年間の取組や他校の情報をもとに、より適切な広報活動を実施する必要がある
			②出前授業や学校見学会、体験入学等とおしたPR活動	①地元小中学校との連携回数の増加 ②体験入学等における生徒参加者数の増加			
		②地域や小中学校関係者等との連携強化	①地域行事に積極的に参加し、地域連携を強化	①地元の企業や自治体等と連携回数が増えたか	①地元企業・自治体、小中学校等との連携回数は60回(48回)。情報電子科課題研究が三郷特支・三郷市広報室と連携。2月に小学校のプログラミング教育支援を実施予定 ※()はH30	①地元企業・自治体、小中学校等との連携回数は60回(48回)。情報電子科課題研究が三郷特支・三郷市広報室と連携。2月に小学校のプログラミング教育支援を実施予定 ※()はH30	A

学校関係者評価
実施日 令和2年1月31日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振者に対する指導の方策を検討する必要がある。 ・大学で理工系を学ぶ上で微積分は重要。新教育課程では数学Ⅲを進学希望者全員に受けられるようにしてほしい。 ・学校教育懇話会の前に開催された5科合同課題研究発表会を、より多くの方(生徒や保護者も含め)に見てもらえるように検討してほしい。 ・朝早くから立哨指導等をして先生方も大変だろうが、事故0件に近づけるよう続けてもらいたい。 ・遅刻者平均15.1件を限りなく0に近づけることができれば、成績不振者も減っていくことは経験則から説明できる。 ・朝は車の方も余裕がないので、自転車や歩行者の側にもそれを分かってもらい、ゆとりを持った行動をすることが大切。 ・今年度HPがよく更新され、とてもよい。PTAで話す保護者の方々からもとても高評価である。ぜひ続けてもらいたい。 ・中高連携はとても大事なことである。働き方改革との兼ね合いが難しいが、ぜひ続けてもらいたい。 ・小学校でのプログラミング教育は児童対象か。教員向けのものがあってもよい。